

令和五年度「家庭の日」作文コンクール入賞作品

最優秀賞

家族の仕事

鳥取市立美保南小学校 六年 森本 葵衣

私は、夏休み中に、「夫婦の家事負担妻八割」という記事を見つけ、内容は妻の平均の家事時間が二百四十分、夫は四十七分と書いてあり、びっくりしました。約百九十分もの違いがあります。たしかに、私の家でも父と母を比べると、父は野球観戦で母は料理と家事量がちがいます。

そこで私は、家族みんなの家事をふり返ってみました。母は料理・洗たくたたみ・そうじ・トイレそうじ・庭の手入れ・家族のアイロンがけなどで、父は洗たく干し・洗車・あらい物などで、私はお風呂洗い・机ふきなどで、弟は洗たくたたみです。これがわが家の夏休みでみんなが代表的にやっていた家事です。母がいちばん多いことに気づきました。記事と比べても、家事量は似ています。ここで私は、疑問を持ちました。なぜ、家族なのに母だけ家事が多いのかです。

そこで私は、母がいつもやっている家事を手伝ってみました。洗たくたたみです。タオルなどはたたんだことはあるけど、服はあまりないので、お母さんに教えてもらいながらやりました。すると、服はたんすに入れやすいたたみ方があるようで、私の服と弟の服で

たたみ方が違うなど、意外に難しく、母は工夫して一つ一つをたたんでいると知りました。分かっているつもりでしたが、他にも見えないところで、母はいつもいろんなことを家族のためにしていると聞きました。この内容だと、父がやっていないという話になります。そんなことはありません。この前は動画を見て、はりきっておいしいカレーを作ってくれました。でもやっぱり私たちは遊んでいて、母は洗たくなどをするというのはだめだと思ったので、家族で家事を分けてみることにしました。これ以外にもいろいろな工夫をして夏休みを過ごしました。私は、母になぜそんなに大変なことをするのかとインタビューしました。答えは、相手の立場になって考えると単純にいやだからと言っていました。例えば洗たく物をみんながたたまないと置きっぱなしになるし、そうじをしなければ、部屋がきたなくなるからと言います。私たちのことを思っていているとも言ってくれました。

このようなことをふくめて家族で分担して家事をがんばろうと思えました。母のうれしい顔が見たいなあと思いました。だから、これからもがんばろうと思います。